

YAMANASHI
DISCOVERY
MAGAZINE

VOL.

16

2019

AUTUMN

山梨

てて
teku-teku
くく

特集

甲斐の山々に魅せられるに



山梨

てくてく

teku-teku
FEATURE

山梨の山

一步踏み入れると待ち受けるかけがえのない感動

Teku-Teku
FEATURE

豊かな自然と生物の多様性 南アルプスという奇跡

はるか昔、海底から生まれ
今もおお、隆起し続ける
美しくもあり雄壮な峰々

日本を代表する山岳地帯である南アルプスの大部分は、プレートの動きによって、赤道付近の海底の堆積物などが移動し、隆起したことにより形成されたと考えられています。300万年前ごろはまだ起伏のない低地でしたが、100万年前ごろから急速に隆起し始めたとき、現在でも1年に3ミリ以上隆起し続ける非火山性の大きな山容は重厚感があります。隆起する山地の内部では、雨が多い気候により河川が侵食されてできる深いV字谷や、隆起の影響で崩壊してできる地形が見られるのも南アルプスの特徴です。

「氷河期の遺存種」が生きる
自然の宝庫

南アルプスは日本列島のほぼ中央に位置し、温暖多雨な気候の影響で、森林限界も標高約2600メートルと高く、標高1600メートル

北岳

ル付近までの山地帯ではブナなどの広葉樹林、2600メートル付近までの亜高山帯ではシラビソ、コメツガなどの針葉樹林が分布しています。それ以上の高山帯ではハイマツや高山植物の群落があり、キタダケソウなどの希少な固有種を含む多様な植物を見ることが出来ます。また南アルプスの豊かな森林には多くの動物も生息しています。高山帯の象徴であり、国の特別天然記念物であるライチョウは世界の生息地の南限となっているほか、ホンドオコジョや高山性のチョウなど、希少な動物たちの多様な生態系があります。

なぜ、南アルプスにはキタダケソウやライチョウといった希少な種が生息しているのでしょうか。それは氷河期と深い関わりがあるといえます。氷河期の日本は大陸と陸続きで、大陸の動物が日本にやってきました。その後、大陸と離れた気温が上がり始めると、これらの動植物は生きるために寒冷な地を求め、標高の高い地域に生息するようになったとされます。南アルプスの高山帯に孤立するように生きている動植物は「氷河期の遺存種」と呼ばれています。

近代登山の発展と 芦安の人々の献身

南アルプスは、古くから信仰の場であり、平安時代に編さんされた「古今和歌集」にも登場しています。南アルプスが信仰ではなく山を楽しむ



キタダケソウは、北岳の高山帯に咲く多年草で、北岳の限られた場所しか生育していない固有種。雪が解ける6月～7月ごろ、花の季節の到来を告げるように白くきれいな花を咲かせる



北岳の雪渓



ライチョウ

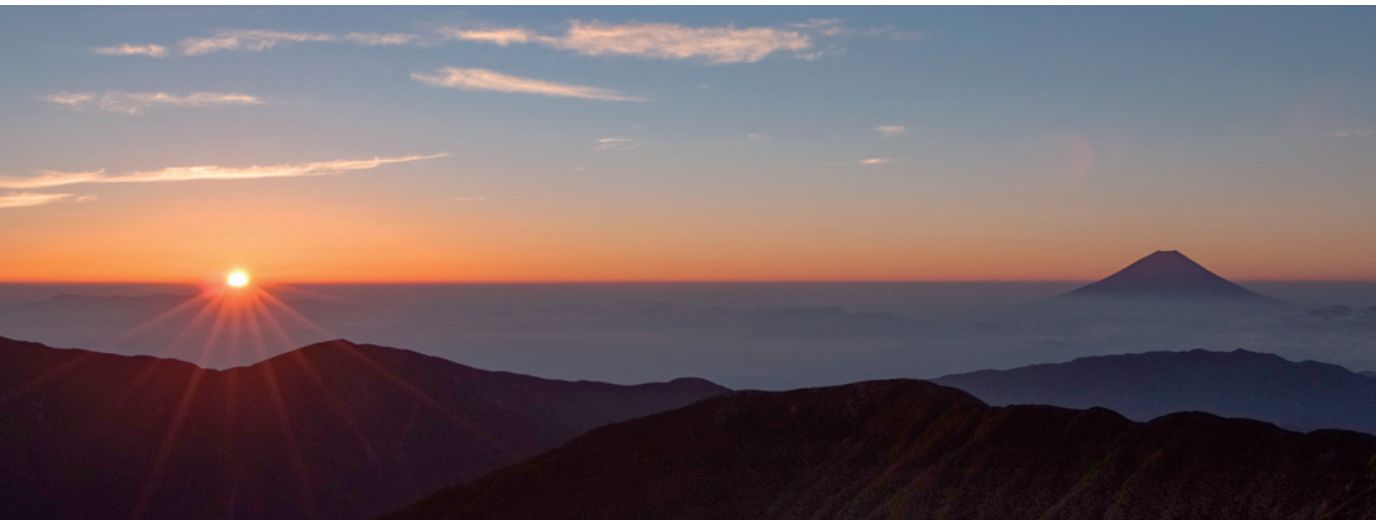
ための登山である「近代登山」の場となっていたのは、明治政府が招いた外国人の多くが日本の山々に引かれたことが影響したと考えられます。その中の一人がイギリス人宣教師で登山家でもあるウォルター・ウエストンです。ウエストンが南アルプスの山々を登り、著書「日本アルプス再訪」にその魅力を記したことなどから、南アルプスの存在は世界に広まっていきました。そのような近代登山の発展を支えたのが、山仕事や狩猟の経験を生かして山の案内人を務めた地元芦安村（現南アルプス市）の人々でした。山に真摯に向き合い、登山者のために献身的に活動して「芦安の案内人」と名をさせた人々もまた、登山の歴史に残る忘れてはならない存在です。こうして近代登山の先駆けとなった南アルプスは、今もなお多くの人々を引きつけてやみません。

山岳文化と貴重な自然
山と親しむ交流ミュージアム
南アルプス市芦安山岳館

「南アルプス市芦安山岳館は、平成15年の開館以来、山岳文化の発掘・継承をはじめ、調査研究や教育、自然保護、安全登山の普及、南アルプスの自然と共に生きた人々の歴史など、幅広い分野についての情報を発信しています。館内の常設コーナーは、南アルプスの自然を知る『山に学ぶ』、近代登山を支えた人にスポットを当てた『山に登る』、人々の仕事と暮らしを振り返る『山に生きる』、山と信仰、民話や史跡から歴史を探る『山の喜び』の4つのテーマで構成しています。他にも豊富な山岳図書の展示や白根三



南アルプスの自然と歴史が学べる展示室



北岳から望む富士山と御来光

山のライブ映像の放映、趣向を凝らした企画展の開催のほか、地域活性化を目的に活動するNPO法人芦安ファンクラブ主催の登山教室の拠点になるなど、人々の交流の場としての役割も果たしています」

誰もが楽しめる山岳館へ

「当館の魅力の一つは、国内屈指の蔵書数を誇る山岳図書があることです。初代館長である塩沢久仙さんは、南アルプスの広河原山荘で管理人を務め、登山者救助や自然保護にも尽力する傍ら、ライフワークとして膨大な山岳図書を収集しました。また多くの山岳関係者からも図書を寄贈していただいています。現在もそれらの整理を進めているところです。」

また、学術的な資料の展示だけでなく、少しポップな要素をプラスした企画展や、家族で楽しめるイベントの開催などにも取り組み、これまであまり山に関心がなかった方や、若い世代の皆さんにも楽しんでいただきたいと考えています。誰もが気軽に楽しめる山岳館として、ゆっ



南アルプス市
ユネスコエコパーク推進室

廣瀬 和弘 さん



北岳の玄関口 「広河原山荘」を訪ねて

北岳をはじめとする南アルプス北部の登山拠点である広河原に山荘が建てられたのは昭和60（1985）年。現在は、初代管理人の塩沢久仙さんの跡を継ぎ、息子の塩沢顯慈さんが2代目として管理人を務めています。顯慈さんは、訪れる人にくつろぎの時間を提供しながら、登山者の安全を見守り続けています。広河原でバスを降り、北岳を仰ぎ見ながら、つり橋を渡って、林に囲まれた広河原山荘を訪ねました。

山梨の豊かな食材を使い
食を通して山と向き合う

「私は物心つく前から山小屋に遊びにきていますが、身近にある良さには気付かないもので、調理の専門学校で勉強し20歳でこの山小屋の仕事に就いた頃は、今ほど山が好きだという気持ちはなかったんです。しかし、遭難救助や登山ガイドに携わるなど、山との関わりが深まってきた26歳のとき、父から山荘を引き継ぐことになりました。その時、どう山に立ち向かうかは、自分次第だと思い、大好きな『食』を通して山に向き合っていくことに決めました。山で採れた山菜や、地元の生産者の野菜や肉

など、山梨の食材を用いて作った料理を山で食べていただきたいと思い研究しました。食を通して地元の生産者やお客さんなどと新たな人間関係が築けたことも良かったと感じています」

山は誰にも平等だからこそ 守ってほしいことがある

「南アルプスは、登山口が奥まっついていて登山ルートも少ないので、他の山に比べて登山者も少なく、多くの自然が残されています。山にはいろいろな表情があり、誰にでも平等だからこそ、山頂を目指して歩いたり、走ったり、花を見たり、雨の日を楽しんだりするなど、人それぞれの楽しみ方が見つけられると思います。ですが、山に入るときには守るべきことがあります。何も持ち込まず、持ち出さず、そして登山届を提出するなど最低限のルールの厳守はもちろん、山に入る目的が違う他者を尊重する気持ちを持たなければいけません。」

登山は数あるスポーツやレジャーの中でも死亡者の数が非常に多いです。私も数多くの遭難救助に当たり、残念ながら亡くなった方、ケガをした方を見てきました。山に入る以上、そういうことにも向き合わなければなりません。例えば野球をするのにバットが必要のように、登山にも必要不可欠な装備があることを忘れないでほしいと思います。登山のスタイルは時代と共に変化するので、私もその変化に柔軟に対応できるように、最新の情報を得ることを心掛けています」



広河原山荘管理人

塩沢 顯慈さん

「父が写真家の白旗史朗さんと親交があったので、私の名前『顯慈』は白旗さんが付けてくれたんですよ」と笑顔で話す顯慈さん。話題が豊富な顯慈さんとお話するのも広河原山荘での楽しみの一つ。



広河原

先人からの継承と 自分だからできることの追求

「父が亡くなり3年ほど経ちますが、どれだけ自分が父に守られてきたかを実感し、また父の業績の大きさも知りました。私は山の世界では一生下っ端という気持ちがあります。父や先輩方が築いてきたものは、受け継がなければならないと思っています。しかしその一方で、自分なりに新しいものを取り入れていくことも必要だと考えています。もともと山が好きというわけではなかった私が、山小屋で働き、今ではこの仕事が好きになったのも、楽しめるようになったからだな、と実感しています。まるで親戚のような存在の他の山小屋の人たちや、次世代の山小屋を担ってくれるであろうスタッフや仲間たちに囲まれて仕事ができることに、私は今とても幸せを感じています」



広河原山荘

TEL.090-2677-0828

地産地消にこだわった食事が人気。
令和3年6月に新築し、移転する予定。



甲斐駒ヶ岳の麓に生まれ、 山を描き続ける画家のまなざし



守山 茂さん

山岳画家

甲斐駒ヶ岳と八ヶ岳、そして富士山を描き続けて半世紀。洋画であっても、日本人である自分が描く絵は日本の絵だという思いで、20歳のときからずっと、サインは漢字で「守山」と入れている。



八ヶ岳を描いた油彩画

「ただひたすらに甲斐駒ヶ岳を描き続け
ついに山を生捕りにした」

「白州町に生まれ、ずっと甲斐駒を見ながら育ちました。そんなふるさとの特徴でもある山に中学のときに初めて登り、小さなころから絵が好きだった私は、登るだけでなく描いてみたいと思ったのです。当時は油絵の画材を扱っている店は非常に少なく、描き方の知識もなかったため、私は電車に乗って甲府まで行き、デパートの書店で油絵の描き方の本を、そして画材店で絵の具などを買いました。」

17歳のときに山梨県芸術祭で入選した作品も甲斐駒を描いた油彩画でした。仕事をする傍ら創作活動を続け、20歳のときに初めての個展を甲府で開催して以降、銀座などでも回を重ねていきました。私は10回目の個展まで甲斐駒だけを描き続けたんです。これだけ一つの山にこだわり続けたのは、自分が最初に登った山への思い入れと、独自性の追求からでした」

哲学者や詩人としても知られる串田孫一氏も守山さんの作品に引かれた一人。昭和60(1985)年には、守山さんの個展のために「生捕りにされた山」という一文を寄せて作品を絶賛しています。

「山と対峙し、一瞬のひらめきを描く」

「私は昔から山などの輪郭を黒で描いています。こ



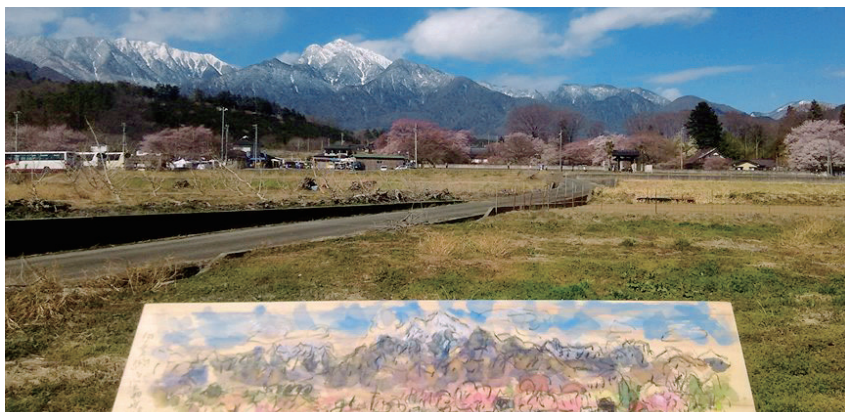
蔵のギャラリー

北州市白州町白須6807-110 TEL.0551-35-2343

第20回個展 開催

■開催期間 11月4日(月・振休)～10日(日)

■開催場所 ギャラリウムサン(東京都中央区銀座1-9-1)



甲斐駒ヶ岳を描いた板絵と題材になった風景

これは隣り合う色が混ざるのが嫌で、境目をつけるために始めたものです。また絵は一気に描くのが私の主義であり、景色を見てひらめいたその瞬間を描いています。パレットは使わず直接絵の具をキャンバスにのせて、筆やナイフ、指を使って描き、厚く絵の具を重ね、色の重なりや透けて見える感じ、質感を表現しています。時には金箔きんぱくなども用いて、黒い縁取りに負けない鮮やかな色彩を使うのも私の作品の特徴でしょうか。

10年ほど前からは、木の板に顔彩で描く『板絵』も描くようになりました。板画家の棟方志功の『板画』にヒントを得た呼び方で、いつも現地でも10分ぐらいで描いていますが、木目の出方も面白くていい味が出ます。

もう50年絵を描いてきました。これからは抽象的な作品など、新しい表現にも挑戦していきたいと思っています。描いていると、知らぬ間に面白い線が出てくることがあります。その思いがけない線がいんですよ。私は『一瞬の線の画家』といえるかもしれません。

画家の視線から見る山梨の山の魅力は、一つ一つの山が特徴的で分かりやすい形をしているところだと思います。ここからも甲斐駒や八ヶ岳の美しい姿を間近に望めます。山梨から見る山の姿が私は大好きなんです。皆さんにも、私の絵を通じて山梨の山の魅力を少しでも感じてもらえたらうれしいです」



おいしい山梨のジビエをキャンプ気分楽しんで。

urban's camp

株式会社Land-knot 代表取締役社長 尾又 慶寛 さん

自然と都市をつなげ、相互が循環できる社会をデザインする株式会社ランドノットでは、森林環境の保全と活用の仕組みづくりを目指し「アウトドア」「飲食」「ファッション・ライフスタイル」の3事業を展開しています。環境省の職員、山梨県の富士山レンジャーとして自然保護活動のキャリアを積んだ後、会社を立ち上げた尾又慶寛さんに食の観点から自然環境の大切さを発信するお店「アーバンズキャンプ」への思いを伺いました。

豊かな自然の恵みを循環させるために

「私は自然保護の活動をする中で、生態系のバランスや、自然環境を見つめ直し、山の資源をどう活用していくべきか考えるようになりました。そして、その仕組みをつくるために会社を立ち上げ、事業の一つとして『アーバンズキャンプ』をオープンさせたのです。山梨は富士山、南アルプス、八ヶ岳などの大きな山々に囲まれ、その恵みであるジビエなどおいしい食材が豊富です。ニホンジカの生息数が増大し続け、農産物などへの被害が深刻となる中、ニホンジカを天然資源と捉え食用として活用できるよう、山梨県には適切に衛生管理を行う食肉加工施設があります。しっかりとした品質を確保できる正規ルートを厳守することは、自然からの恵みを流通させていく仕組みを構築するためにもとても重要なことだと私は考えています」

街の中のキャンプ空間で

山梨の自然が育んだ味を

『街の中にキャンプの空間を』をコンセプトにして

いるので、店にはキャンプ気分を味わえるたき火ラウンジがあります。椅子も間伐材の丸太で作るなど、店内には山の素材を多く使っています。木材は傷んだらまきにして燃やし、活用しています。料理の素材は、ジビエに限らず、無農薬野菜、ワインやビールなども積極的に山梨県産のものを使い、調理法はジビエの文化が根付いているフレンチやイタリアンをベースに、オリジナルのスタイルを追求しています。食用として用いられるシカやイノシシなどは育った自然環境により味が変わるので、山が多く、自然の恵みがたくさんある山梨はおいしいジビエが手に入る環境といえるでしょう。ジビエに対する先入観を持たずに、店の雰囲気を楽しみながら、味わってほしいと思います」



アーバンズキャンプ

富士吉田市上吉田7-14-12
TEL.0555-25-7531
営業時間：10:00～22:00
定休日：木曜日
※営業時間、定休日は季節により変動があります。



山梨県産ジビエ前菜盛り合わせプレート
熟成鹿モモ肉の炭火ステーキ～無農薬野菜のグリル添え～



富士山は博物館

この素晴らしい自然を
次世代につなぐ

富士山アウトドアミュージアム

舟津 宏昭さん・章子さん

移住先／富士河口湖町

北海道小樽市出身の舟津宏昭さんは、富士山を身近に感じ、都留文科大へ進学するために山梨へやってきました。大学では博物館学を中心に学び、当時最先端だったフィールドミュージアムについて知識を深めていった宏昭さんは、この知識と富士山を関連付けて何かできないかと考えるようになったといいます。

「平成13年から、富士山の環境保全をしているNPO法人富士山クラブで、バイオトイレの設置や清掃活動など、さまざまなプロジェクトに携わりました。その後私は、富士山の環境のために自分がやれること、やりたいことを見つめ直し、一念発起して独立を決意したんです」

その時、宏昭さんの中で膨らんでいたのは、富士山の麓で生活する人々、特に子どもたちと一緒に富士山を見守っていきたいという思いでした。そして奥さまの章子さんと共に平成26年に「富士山アウトドアミュージアム」を立ち上げたのです。「『たくさん見つけて、ていねいに調べて、大切にまもり続けて、めいっぱい楽しむ！』が私たちの活動のコンセプト。これは博物館が持っている機能そのものです。そこで私たちは富士山を博物館として捉えて、主にアウトドアを中心とした

山梨への移住・就職相談はこちらへ

やまなしUIターン就職支援センター

8月1日、JR東京駅前にオープン。

UIターン就職に関する相談、キャリアカウンセリングをします。移住に関する情報提供なども行っています。

東京都千代田区大手町2-6-2

パナソニックグループ本部ビル JOB HUB SQUARE 3F

TEL.03-6734-1092 E-mail:yamanashi-UI@pasona.co.jp

利用時間:月~土曜日 11:00~19:00(土曜日は第2・第4週のみ)

やまなし暮らし支援センター

山梨への移住や就職について、ワンストップでお手伝い。移住セミナーや各種イベントも開催しています。

東京都千代田区有楽町2-10-1

東京交通会館8F NPOふるさと帰帰支援センター内

TEL.03-6273-4306 E-mail:yamanashi@furusatokaiki.net

利用時間:水~日曜日 10:00~18:00



「富士山の森が小学校」での活動の様子



「この地域には、素晴らしい自然と、人の心の温かさがあり、ありがたみを感じる毎日です」と笑顔で語る宏昭さんと章子さん

富士山アウトドアミュージアム／富士河口湖町船津4100 TEL.0555-75-1958



富士山周辺の道路で、事故に遭った動物の種類、場所、死亡個体数をマップ化した「富士山麓ロードキルマップ」



富士山を取り巻くこの自然環境を守り、次の世代も同じように過ごせる地域にしていきたいです。そして子どもたちが富士山を好きになり、私たちと同じ思いを持ってくれる日が来ることを願っています」

活動を展開しています。また、野生動物の交通事故死「ロードキル」を減らそうと実態調査も行っています。自然環境と人間社会が近接している富士山周辺地域の野生動物と人々の共存のために、事故を見逃ごすことはできないのです。地域住民や専門家の方々のご協力をいただきながら、今は調査で得られたデータをどのように活用していくのか検討しているところです。

その他、地域の子どもたちと自然の中でごみ拾いやキャンプなどを行う「富士山の森が小学校」も実施しています。参加した地域の子どもたちからは「ふなっちゃん」と呼んでもらえるようになったんですよ。最近は私たちの活動に興味を持った県外の学生も参加してくれるようになりました。これからも新しい意見を取り入れながら、充実した活動を続けていきたいです。

街道の駅からの小さな旅

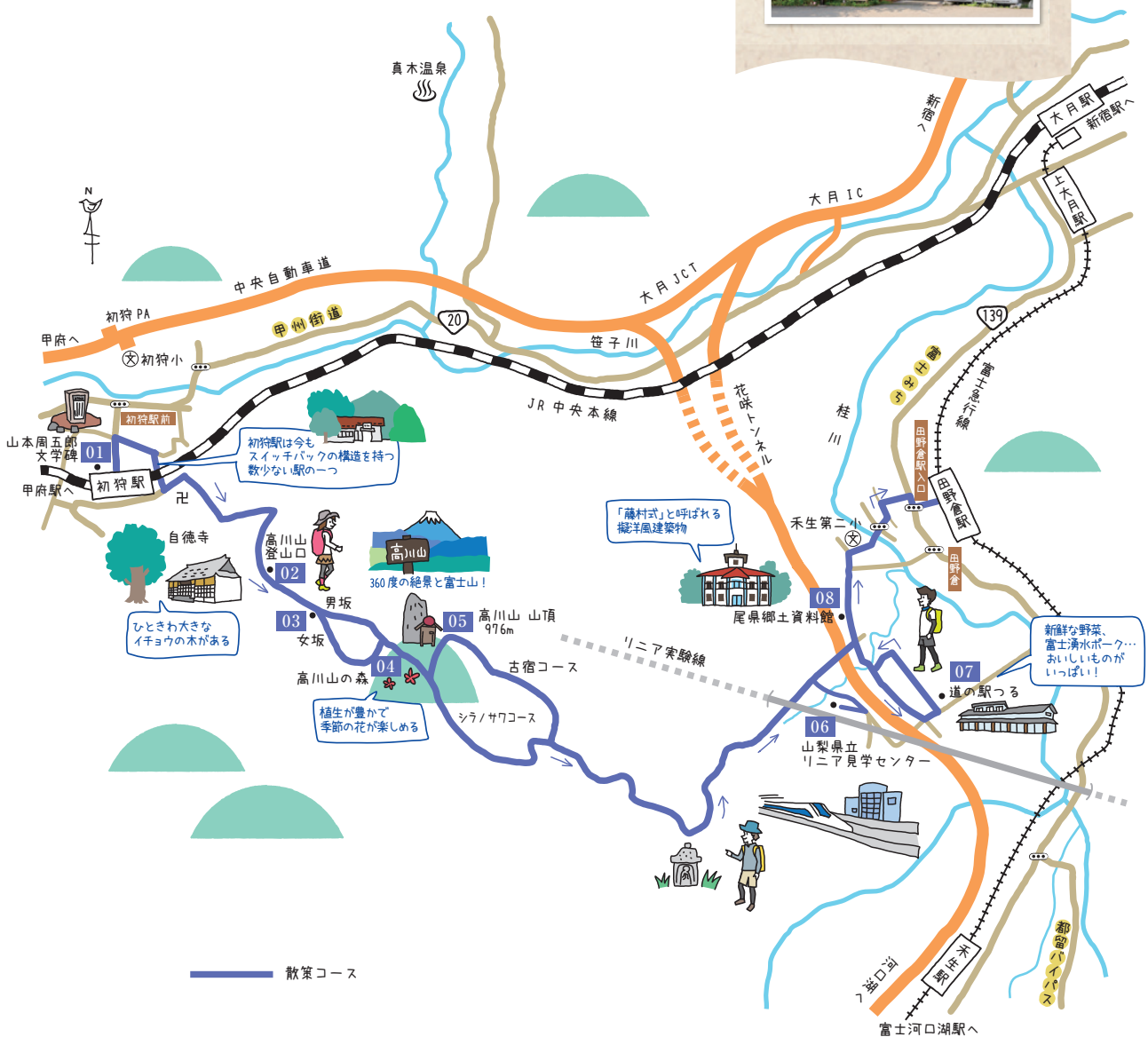
てくてくてくてくて

甲斐のくに

第16駅 初狩駅



今も懐かしい雰囲気を感じさせてくれる
初狩駅をスタートし、高川山に登頂して田野倉駅まで歩きます。
文化人ゆかりの初狩の町から、富士山の絶景が待つ自然豊かな
登山道を行き、新時代の交通機関リニアまでを巡る道。
歴史と自然、そして未来に思いをはせながら、てくてくと…。



06



**山梨県立
リニア見学センター**
時速500キロで走行するリニアを間近で見られる。さまざまな展示や模擬体験からリニアの世界を体験。観光物産スペースなども充実し、山梨とリニアの魅力が楽しめる。

07



道の駅つる
地元産の新鮮な野菜、幻の豚と呼ばれる富士湧水ポーク、地元食材の加工品などがそろう。地産地消のレストラフも人気。その他、体験教室や観光案内も充実。

08



尾^{おがた}郷土資料館
明治11(1878)年に建築された旧尾郷学校の校舎を活用。館内には明治から昭和までの教育関連資料が展示され、昔懐かしいおもちゃで遊べるコーナーもある。



てくてく
歩きの
途中で：

高川山の山頂で、東京から来ていた女性に出会いました。「達成感や爽快感が得られ、素晴らしい景色が見られるのが登山の魅力ですね。特に山から眺める富士山は本当に感動的。それに山を通して人と出会い、輪が広がっていくことにも幸せを感じています。最近、駅から直接登れる山によく行っています。これからは他の山梨百名山にも登ってみたいです」と爽やかな笑顔で話してくれました。

01

山本周五郎 文学碑



小説家・山本周五郎は明治36年(1903)に大月市初狩町で生まれました。駅前には山梨を舞台にした「山彦乙女」の二部が刻まれた文学碑があり、駅近くには「山本周五郎生誕之地」の石碑もある。

02

高川山登山口



JR初狩駅から徒歩で登山口まで行けるアクセスの良さも高川山の魅力。道標に従って進むと約30分て登山口に到着。

03

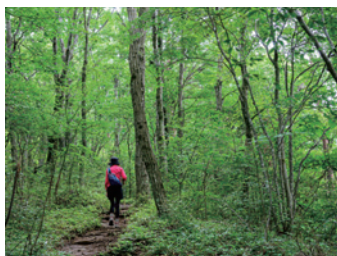
男坂・女坂



岩が多い急登の男坂と、少し遠回りになるが緩やかな登りの女坂がある。どちらのコースを選んでも後に合流し、その後は山頂まで一本道。

04

高川山の森



野鳥の音が響く森は、花の季節にはチゴユリやヒトリシズカ、ヤマツツジ、カタクリなどが咲く。夏にはクワガタの姿も。高川山は多様な動物と出会う自然の宝庫。

05

高川山山頂



標高976メートルの山頂からは大月市の「秀麗富嶽十二景」に選ばれた富士山の絶景が。周囲360度の山々を示す方位盤もある。眼下にはリニア実験線も見える。

てくてく
甲斐の国

高川山からの富士山

そこにはいつも、人の心に語り掛ける絶景がある





大月市では、市域の山頂から望む美しい富士山を後世に伝えるために「秀麗富嶽十二景」を選定。その一つ高川山から望む富士山は、たおやかに裾野を広げ、たなびく雲を従えて、息をのむ美しさ。山梨の多くの山からは、季節や時間、天候により刻々と表情を変えていく富士山を眺めることができる。登ったからこそ出合える、一期一会の風景…。いつまでも心に残る感動が山梨の山で待っている。



山梨へは中央線の特急列車でどうぞ!

主な停車駅

新 宿
立 川
八 王 子
大 月
塩 山
山 梨 市
石 和 温 泉
甲 府
竜 王
韮 崎
小 淵 沢



特急列車のご予約は「えきねっと」で!



詳しくはホームページをご覧ください。



www.eki-net.com

- パソコン・スマートフォンから
ラクラク簡単予約!
- 指定席発売開始日の
さらに1週間前から申込可能!
- 指定席券売機でスムーズにお受取り!

※一部の列車や一部の区間は「えきねっと」でお取扱いしていません。

※乗車日の1ヶ月+1週間前から指定席を事前に申し込むことができます。実際の座席手配は乗車日1ヶ月前の午前10時からとなります。

※満席等の理由により、座席をご用意できない場合があります。※運転日や運転時刻、停車駅などは事前にご確認ください。

※掲載内容は2019年8月現在の情報です。ご利用の際はホームページなどで最新情報をご確認ください。※路線図や写真はイメージです。



山梨 てくてく *Toku-Toku*
VOL.16 | 2019 AUTUMN

令和元年8月1日【季刊】
第16巻秋号



やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、
FSC®森林管理認証を
取得した山梨県有林からの
木材が使用されています。

山梨県広聴広報課 発行 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
TEL. 055-223-1339 FAX. 055-223-1525 制作 山梨日日新聞社

山梨県